

# 農業・農村関連記事

掲載日時：平成30年11月20日

掲載紙：下野新聞

内容：垣根のない農業 推進へ 講演会で先進事例学ぶ

## 垣根のない農業 推進へ

### 講演会で先進事例学ぶ

大田原

【大田原】子どもや高齢者、障害者など誰もが取り組めるユニバーサル農業の理解促進を図ろうと、那須

地方農政講演会が19日、市内で開かれた。埼玉県白岡市で障害者とネギ生産に取り組む「アルファイノベーション」社長の山田浩太さん(44)が独自の農福連携

の成果を報告し、地域の農家や福祉関係者ら約200人が熱心に耳を傾けた。

県は本年度、農業者と障害者就労施設を結ぶマッチング事業をスタートさせ、ユニバーサル農業に力を入れている。講演会は那須地方農業振興協議会や県那須農業振興事務所などの主催

で、農福連携によってネギなどの園芸作物の生産拡大を目指そうと企画した。

山田さんは京セラや船井総合研究所を経て6年前に農業へ参入。障害者の就労を支援するNPO法人も立ち上げ、障害者約40人と10畝でネギを生産している。

「障害者が作ったネギという言い方でなく、いい品質のネギを買ったら障害者の方が活躍していた、というほうが広がりが出る。(農福連携を)やるためにどうすればいいのかを考える姿勢が大切」と語った。

聴講した狭原、農業清水真理子さん(58)は「従業者の高齢化が進む中、将来の人材確保を考える上で大変参考になった」と話した。

(三浦一久)



独自の農福連携の取り組みを語る山田さん